

企 画 名: たらちねβ線核種測定ラボプロジェクト 2016 年度

団 体 名: いわき放射能市民測定室「たらちね」

1. 報告要旨

2017 年度たらちねベータラボの事業の大きな成果は、海水のストロンチウム 90 分析法の確立と、骨のストロンチウム 90 分析法の確立の 2 つである。この成果を得られたことで 2015 年から行っている福島原発沖での海洋調査のサンプリング試料のストロンチウム 90 測定が可能になった。2011 年の福島原発事故による海洋汚染の実相を知るために、この調査とデータの集積は重要なものであるため、この分析法の確立には大きな意味があると考えている。分析ができずに冷凍保存していた試料を順次測定し、測定値を出す作業を始めている。海洋調査はまだ 5 回しか行ってないが、2016 年度のいわき沖海洋調査では、原発から 30km 以上離れた海域からもストロンチウム 90 が検出され、汚染が思っている以上に拡散している印象を持った。

もう一つの目標であった高性能の放射能測定器の購入は、資金の目処が立たずに購入に至らなかった。このことは計画をいったん凍結し、今後の事業内容と資金状況を考えて再度進められる機会があれば考えていきたいと思う。この機器の購入により解決できるはずであった検出下限値をさらに低くすることと、測定の順番待ちをしている試料の処理能力を上げることについては、現場の人的努力で少しでも改善できるよう努力することを話し合った。

2016 年度は計画通り進んだことと、進まなかったことと両極端に分かれた結果になったが、困難にぶつかった時、現場のスタッフ間で話し合いを持ち解決に導くというチームワークが深まった年であったと考える。ベータ線の測定は設備や技術だけでなく、現場の協力体制が大変重要で、お互いに協力しあい研鑽し向上するということを実践できた「熟成の年」であったと感じる。

2011 年 3 月 11 日に起きた原発事故の汚染の問題は、私たちの世代だけでなく、世代を超えて検証していかなければならないものなので、今後も長く取り組んでいきたいと思う。

2. 成果物

1. 「[After Fukushima disaster, Japanese mothers don lab coats to measure radiation](#)」『Thomson Reuters Video』(2017/03/09)
2. 「[Le madri di Fukushima misurano da sole la radioattività del cibo](#)」『Internazionale』(2017/03/10)
3. Mari Shibata 「[FEATURE-After Fukushima disaster, Japanese mothers don lab coats to measure radiation](#)」Reuters (2017/03/09) The Asahi Shinbun (2017/3/11)
4. 「Rebellion der Mütter von Fukushima」Gesellschaft (2017/3/11)
5. NHK 国際放送での報道
6. 天野光、木村亜衣、鈴木薫「食品と環境中トリチウムの迅速分析 (2) 組織結合型トリチウム」(第 18 回「環境放射能」研究会でポスター発表)
7. 天野光、坂本英輝、根本富実子、鈴木薫「食品と環境中 Sr-90 の迅速分析 (2) 2 重固相抽出法」(第 18 回「環境放射能」研究会でポスター発表)
8. 『[月間リード](#)』(毎月掲載)
9. 「市民測定室だより」『[日々の新聞](#)』連載
10. [市民活動のひろば](#)
11. 海洋調査データ「たらちね海洋調査結果 第 1 回～5 回」